

第47回日本重症心身障害学会を終えて



令和3年12月1日と2日の2日間にわたりお台場のTFTホールで行われた第47回日本重症心身障害学会は、600名以上の参加を得て盛況のうちに終了することができました。3年振りの実会場での開催にこぎつけるまでにいろいろと乗り越えなくてはならない問題がありました。しかし結果として口演が103題、ポスターが60題、計163題もの演題が集まり、今の時期としては十分に盛り上がる学会となりました。一般演題の上にさらに指定演題として多くの先生方にご講演いただき、ファッションショーも復活できました。基調講演をお願いした窪田先生はご病気のため発表前に亡くなりましたが、私たちの心に届く確かなメッセージを生前にビデオで届けてくださいました。市民講座での石井めぐみさん、児玉真美さんの講演も私どもに大きな問題を投げかけてくれました。児玉さんが、自分たち面会者だけにゼロコロナを押し付けまいとの趣旨で訴えられた施設での面会制限問題は、学会の理事会で大きな問題として受け止め、2月には学会から提言としてお答えすることができました。

本学会は昭和50年に小林提樹先生が第1回を開催され、以後12回まで先生が会長を務められました。それから35年ぶりの開催となりましたが、島田療育センターが一丸となって、このような評価の高い学会を作り上げました。ここに至るまで日常の仕事以外の大きな仕事として真摯に受け止め、頑張って成功に導いてくださった島田はちおうじの職員の皆様に、このしまはち通信の紙面を通して御礼申し上げます。ありがとうございます！

【第47回日本重症心身障害学会会長 木実谷 哲史】

座長を通して

第47回日本重症心身障害学会では、3講演の座長をしました。その内容を紹介します。

1. 特別報告「経腸栄養分野における旧規格コネクタが、新規格導入後も存続可能になった経過と今後」
びわこ学園医療福祉センター草津 口分田政夫先生

厚生労働省は、経腸栄養において、国際規格の新規コネクタに全面的に変更しましたが、ミキサー食注入の注入困難など数々の問題が生じてきたため、日本重症心身障害学会は、新規コネクタ問題プロジェクトチームを設置して、活動をしてきました。その結果、2022年5月20日厚生労働省は「旧規格製品の使用を可能とすることが適当である」という通知を出しました。その活動内容を報告してくれました。

2. 「重症心身障害児（者）と亜鉛」北海道療育園診療部 徳光亜矢先生

亜鉛は体内で300種類以上の酵素の活性に関わる、必須微量元素である。2011年に北海道療育園の施設利用者約300人の血清亜鉛値を測定したところ、食事を経口で食べている人であっても半数近くに低亜鉛血症がみられました。重症心身障害児者の亜鉛欠乏に気づくのは難しいため、定期的な亜鉛測定と、適切な亜鉛補充が行われるのが望まれます。

3. 「アフリカ・ケニアの障がいのある子どもたちに寄り添って、原点を考える」シロアムの園小児科医 公文和子先生

公文先生は、2015年、障がい児の包括的ケアを目指す事業「シロアムの園」を設立しました。ケニアには、施設がない。社会保障もない。学校や病院から拒否される。あるのは偏見だけです。でも、「シロアムの園」の子どもたちは笑顔です。素敵な笑顔です。

「笑顔の向こう側にあるたくさんの困難」

素敵な笑顔のために、「シロアムの園」は活動していきます。

【所長 小沢 浩】



学会報告

OTは「重症心身障害児（者）の感覚特性を多職種連携で理解する試み」を発表しました。OTと通所職員が協力して、子供の感覚処理能力を評価する質問紙を用いてどこまで理解できるかを検討しました。結果は感覚特性を概ね理解することができました。今後も研究を継続することで効果的な支援につなげていきたいと思います。

【リハビリテーション科 作業療法士 上田 敏宏】

STは「重症心身障害児者の咽頭期嚥下障害のメカニズム解明」と「重症心身障害児者の嚥下中誤嚥の動態特徴」の2演題を発表しました。どちらも嚥下障害が起こる原因を探ることで、効果的な支援方法を検討するための研究です。研究結果を活かし、重症心身障害をもつ方々が食事を安全に楽しめるための支援を今後も検討していきたいと思います。

【リハビリテーション科 言語聴覚士 中村 達也】

通所では「重症心身障害児（者）通所施設での新型コロナウイルス（COVID-19）流行に伴うストレスの検討」と「重症心身障害者通所施設に勤務する多職種の倫理的感受性の質的検討」、「重症心身障害者の効果的な洗顔方法の検討」の3題をポスター発表しました。利用者様の洗顔に関する研究は、顔の汚れを数値化することでより効果的な洗顔方法を考えるきっかけになりました。また、コロナ禍におけるストレスや、職員の気づきの力など、普段は見えにくいものをこうした機会に調査したことで、職員の意見交換にもつながりました。

【通所科 児玉 裕】

福祉相談科からは「八王子市における相談支援専門員の現状」という題名で、重心を受け入れている事業所の体制、課題などアンケート調査を行い、7年前と比較しつつ発表しました。サービス資源の少なさに関する課題が以前よりも増してきていることが明らかになりました。今後も定期的に調査をし、市内の課題等を確認していきたいと思います。

【医療福祉相談科 三枝 勅夫】



通 所

餅つき活動

1月に通所の中で餅つきを行いました。3グループに分かれて、お餅をまず自分たちで作りました。紙粘土を使ったお餅ですが、水と一緒にこねて混ぜて、ホウ砂水の分量を注意しながら加えて・・・そしてふわふわして伸び～る本物のお餅に引けをとらないお餅が完成しました！

作ったお餅を使って、いよいよ餅つき！ 自分の好みに合わせて大小の杵を選び「よいしょ～」の掛け声に合わせて、大きく振られる方から早く振られてたくさんこねる方など自分の好きな方法で楽しませておられました。次は本物のお餅をつきたいな～



節目を祝う会

今年度節目の年を迎えられた友永様、三谷様、長澤様へ節目を祝う会を開催させていただきました。当日はご家族の皆様も来ていただき、お祝いの言葉やビデオメッセージを一緒にご覧になっていただきました。定永先生をお迎えしたお祝いの歌では皆様の好きな曲をリクエストして演奏していただき素敵な演奏に耳を傾けられていました。そして最後のスライドショーではこれまでご家族の皆様が撮影された大切なお写真を使わせていただき、感動的な映像となりました。改めて節目を迎えられた皆様おめでとうございます！

【通所科 小山 峻介】



【通所科
一条 昌
宏】

ハロウィンバスボム作り



10月の活動内で、ハロウィンイベントのバスボム作りを行いました。飾りつけのされた部屋に入った際には、利用者様のわくわくした表情を見ることができました。

バスボムは重曹・クエン酸・アロマオイルを混ぜて、オバケやカボチャの型に入れて作ります。どんな香りにするか、どんな形にするかを利用者様と相談しながらそれぞれのバスボムを完成させました。



【通所科 永妻 萌】

「Baby Loco」寄贈

この度、2022年度24時間テレビチャリティー委員会より、小児用移動支援機器「Baby Loco（株式会社今仙技術研究所）」を寄贈して頂きました。

「Baby Loco」は自ら移動する当たり前の喜びを全てのお子さんに感じてもらいたいという思いから開発された製品です。



自らの意思で動く経験は、子ども達の発達においてとても重要な要素となります。当センターの理学療法を実施している多くの子ども達に使って頂き、沢山の笑顔がみられることを楽しみにしています。



【リハビリテーション科 理学療法士 黒川 洋明】

ほ と ひと いき

趣味らしい趣味がない私ですが、ここ10年弱続いているのがランニングです。

年齢を重ねるごとに運動不足が気になりウォーキングを始めたのがきっかけです。若い頃は走ることが大嫌いでしたが、歩き続けているうちに走れるんじゃないかしらと走ってみたら思いの外気持ち良く、今に至っています。ランニングというにはおこがましい位のスローペース、これが長く続いている秘訣かもしれません。ランニングの健康効果は脂肪の燃焼、筋肉や骨の強化、体の若返り、脳の活性化とたくさんあるそうですが、効果を体感できているのやら。速さを求めず気持ち良く走れるペースで走っている私でしたが、友人に誘われてマラソン大会に参加する事になりました。制限時間内に完走できるように頑張ります。



【診療科 能登 志のぶ】

おしらせ

information

「輪を和でつなぐ」

著 者：小沢 浩

発行所：クリエイツかもがわ

価 格：2000円（税別）

発売中です



島田療育センターはちおうじ 小児診療



こどもクリニック

♡ えみんぐ ♡

- ・各種 予防接種を行っています。予約制となりますので、詳しくはお電話でお問い合わせください。
- ・発熱など風邪症状のある方は、ご来院前にお電話でお問い合わせください。感染症対策のため、ご協力よろしく願いいたします。

診療内容

こどもがかかりやすい病気（発熱や嘔吐・下痢など）の診察・治療を行っています。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	●	●	●	●	●		
13:45~14:45	予	予	予	乳	予		
15:00~17:00	●	●	●	●	●		

予... 予防接種 乳... 乳児健診
*土日の他、祝日も休診となります



TEL. 042-634-9008

